

◆経済倶楽部講演会第4059回（2月7日）

## 2014年の日米中関係

### —米国の戦略から見るトライアングル

東京財団上席研究員  
渡部恒雄

- \* アメリカの対中政策の枠組みは不変
- \* ベトナム戦争終結へ対中関係を改善
- \* 対中政策は三要素のジャグリング
- \* 中国に責任ある行動求めるアメリカ
- \* 日米離反は中国を利するだけ
- \* タイミングが悪すぎた靖国参拝
- \* アメリカは同盟国との連携が重要に
- \* 大きな棍棒を持って静かに話す
- \* 10年、15年先をにらんだ戦略を



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日は日米中を考えるということで渡部恒雄先生にお願いいただきました。渡部さんはよくご存じの渡部恒三さんのご子息でいらっしやいます。経歴で見ればわかるように歯医者さんの勉強をされておられます。お母さんが歯医者さんでもう儲からないよと言われて転向したということです。

社会科学に興味があって、アメリカで大学院に入り、その後、アメリカの有名なシンクタンクで研究されました。ですから、アメリカのシンクタンクと政権の関係や政策の形成過程については非常にお詳しい方で、アメリカ政府への政策提言などにも参加されています。

米中関係、日米関係、日中関係は切り離せない関係なわけですから、今日はそのあたりを読み解いていただけるのではないかと思います。ちなみに読売のナベツネさんとは縁戚関係にはないそうです。（笑）それではよろしくお願いたします。（拍手）

**渡部** 今日は本当に皆さん大勢お集まりいただきましてありがとうございます。ご紹介いただきました渡部恒雄でございます。最初に説明してもらったので皆さん驚かないでしようけれども、たぶん半分ぐらい勘違いして「あれっ？違う講演会に来たのではないか。渡部恒雄の顔が違うぞ。俺の知っている渡部恒雄はもっと老けているぞ」という方もいると思います。実は私は渡部恒雄さんともご縁があるのです。